

課題解決型高度医療人材養成プログラム 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

〔取組1〕 医師・歯科医師を対象とした事業
(2) 特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成
テーマ① 放射線災害を含む放射線健康リスクに関する領域

| | 整理番号 | 1 |
|--|---------------------|---|
| 申請担当大学名 (連携大学名) | 筑波大学 | |
| 事業名 | 放射線災害の全時相に対応できる人材養成 | |
| 事業責任者 | 医学群・学群長 榎 正幸 | |
| 事業の概要 | | |
| <p>放射線災害には、災害発生時の「あらゆる被ばく・汚染を伴うあらゆる傷病者」に対する緊急被ばく医療から、復興期の継続的な放射線に対する健康管理まで、各災害時相に対応する人材が必要となる。本プログラムは、この分野を担う主に医師を養成するための教育システムを構築することを目的とする。具体的には下記の3本立てとする。</p> <p>① 学部教育：既存の科目を最大限に活かしたプログラム</p> <p>② 卒業後生涯教育（履修証明プログラム）：既に資格を有している医師とその他のメディカルスタッフを対象としたプログラム（医療従事者の資質向上）</p> <p>③ 大学院教育（新たな研究分野の設置）：学部および卒業後教育の延長線上で研究も視野に入れたプログラム</p> | | |
| 推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：充実を要する点等 | | |
| <p>○放射線災害の急性期、収束期、復興期の特徴のいずれにも対応できる人材養成を目標とし、臨床疫学教育を重要視している点が特徴的である。</p> <p>○放射線災害全時相を学習できるカリキュラムを学部教育、卒業後生涯教育、大学院教育という3本立てで教育システムを構築する点は、基礎教育、実践、研究をつなぐことにもなり、高く評価できる。</p> <p>○現行の学部教育を基盤に教育プログラム内容を改正していく点は、実現可能性が高いと評価できる。また、卒業後生涯教育をeラーニングで支援することにより、実践現場の人材育成と発展につながる事が期待される。</p> <p>○放射線防護学関連の講座を新設することにより、研究のさらなる継続と発展が期待される。</p> <p>●茨城県等との緊密な連携体制を構築するとともに、地域を巻き込んだ被ばく対策等について、具体的な検討が望まれる。</p> <p>●補助期間終了後も本事業を確実に継続するための計画を具体的に検討する必要がある。</p> <p>●他大学等の参考となるよう本事業に係る取組や成果等を積極的に情報発信するなど、事業の普及・展開に努める必要がある。</p> | | |